

味 度

みかん
Mi-kan

味の歳時記

— 兵庫県

ザ グランリゾート 有馬



あの時 あの人

〜日本調理師連合会を作った人達〜

6

June 2015
水無月

旬のヒント

琵琶湖ランドホテル 京近江

尾崎 健司

奈良パークホテル
大和料理 萬佳 奈良店

真鍋 勝志

宝塚ワシントンホテル
日本料理 島家

西森 健造

ザグランリゾート 天の橋立

佐野 進一

北新地はし本

橋本 晴広

味三景

大阪新阪急ホテル

坂口 保則

ザ・グランディアアラ大阪

島 将士

ザグランリゾート 近江舞子

清水 末広

頂点に挑む

旬彩和食 口福

中里 知

天婦羅処 京林泉

中村 義郎

馬の楽しみ方の一つである。老舗旅館や土産物店が並ぶ街並みは、古き良き時代を今に伝える。その一方で、温泉街は少しずつ表情を変え、洒落た靴や雑貨の店、カフェなどの新しい店がオープンする。和菓子店やケーキ店のディスプレイに並ぶ新作は、めぐる季節を運んでくれる。

この温泉地に、株式会社大倉が経営・運営する



小 宴 会 場

「ザ グランリゾート有馬」の厨房から力強い号令がかかる。

感じずにはいられない「縁の妙」

宿泊する場合は「ザ グランリゾート プリンセス有馬」を利用するなど、それぞれの施設の良さが活用されている。

若い頃は日本料理店に勤務しながら、その後、大阪市の鰻・日本料理「東京竹葉亭」、JR京都駅ビル内の「ホテルグランヴィア京都」などで腕を磨く。三十代に入って「南地大和屋」に戻り、料理長に就任した。およそ十年後には大阪・難波の「スイスホテル南海大阪」に入社し、すぐに腕を買われて和食の料理長となった。二〇一一年に株式会社大倉に移って「ザ グランリゾート赤穂」の料理長を務め、翌年「ザ グランリゾート有馬」に異動した。

一筋に、お客様だけを見つめて

ザ グランリゾート 有馬

木原 俊



味の歳時記
人の命と健康を守る地域の食文化
 地産地消の実践や食育活動などに精力的に取り組む各地の料理人にスポットを当て、それぞれの地域の歴史・文化と、そこに伝わる郷土料理を紹介し、「安全・安心な食」の重要性を広く発信していきます。

歴史のある温泉街に吹く

新しい風
 「ザ グランリゾート有馬」がある。大倉は、一九六二年に大阪市で建売住宅の販売会社として創業し、一九七四年にリゾート事業に着手、会員制のリゾートクラブの営業を開始した。自分の別荘感覚で利用でき、それでいて自分の別荘ならつきまとう維持・管理の煩わしさから解放されることを理想に、全国のリゾート地二十カ所に会

「ザ グランリゾート有馬」がある。

員制のホテルを展開し、沖縄県の一カ所に提携ホテルを有する。同社は最初のホテルの建設地として有馬を選び、一九七八年に「ザ グランリゾート有馬」をオープンさせた。その後、百五十メートルほど離れた場所

声の主は料理長の木原 俊氏だ。腹の底から発せられる声に触発されるように厨房が活気づいている。

木原氏は一九六七年、広島県呉市に生まれた。瀬戸内海の海上交通の要衝として発展してきた町で育ち、外航船にあこがれて商船学校に進んだ。寮生活に入ると上級生から賄いを作るよう言われ、次第に料理づくりが面白くなる。プロの料理人になりたいと思い、卒業後は、大阪市の「南地大和屋」に入社した。

その後、大阪市の鰻・日本料理「東京竹葉亭」、JR京都駅ビル内の「ホテルグランヴィア京都」などで腕を磨く。三十代に入って「南地大和屋」に戻り、料理長に就任した。およそ十年後には大阪・難波の「スイスホテル南海大阪」に入社し、すぐに腕を買われて和食の料理長となった。二〇一一年に株式会社大倉に移って「ザ グランリゾート赤穂」の料理長を務め、翌年「ザ グランリゾート有馬」に異動した。

その後、大阪市の鰻・日本料理「東京竹葉亭」、JR京都駅ビル内の「ホテルグランヴィア京都」などで腕を磨く。三十代に入って「南地大和屋」に戻り、料理長に就任した。およそ十年後には大阪・難波の「スイスホテル南海大阪」に入社し、すぐに腕を買われて和食の料理長となった。二〇一一年に株式会社大倉に移って「ザ グランリゾート赤穂」の料理長を務め、翌年「ザ グランリゾート有馬」に異動した。



き、料理長に任命してくれた。大倉に入社してからは小山和夫氏の指導を受けている。

「前の勤務先のスイスホテル南海大阪には外国人のお客様が多く、伝統的な日本料理が好まれました。そのときとはお客様の嗜好が異なりますから、

そのままではご満足いただけません。発想の転換が必要なんです。小山の親父に色合いや盛り付け方について相談し、勉強させていただきました」

ご高齢の方が多いため、食材の硬さを調節して食べやすい料理づくりに努めている。お客様への思いやりを常に

忘れない木原氏は、昨年、日本安全食料料理協会の漢方コーディネーターの資格を取得した。これは、漢方・漢方薬に対する基本的な知識、漢方独自の診断方法や養生などへの理解が一定以上ある、と認められた人に対して認定される資格である。

「美味しさだけでなく、体に良い料理づくりが重要です。特に病気にかかることが多くなってくるご高齢のお客様には、体に優しい料理を作るよう心がけています」

二日に一度は、地元産の食材にこだわった産直の施設に行き、信頼できる生産者が作った安全安心な野菜を使っている。

「お客様に喜んでいただけるものをお作りしていくことしか考えていません。その仕事を続けていくのみです」



調理師のみなさん
【後列左より】
坂口 保則 鎌倉 大珠 後藤 大輔 則光 拓也
山崎 良信 清水 末広
【前列左より】
司辻 和行 木原 俊 料理長 森口 富士夫
畑 壽樹 支配人 小山 和夫

ら、他店の手伝いなどを頼まれた。多事多忙の中にあつたが、「それだけに行く先々でいろいろな料理を覚えられました」と語る。

人との出会いも多かった。生来の実直さが愛され、親しみやすい雰囲気も持つ木原氏は、いろいろな人にかわいがられた。「南地大和屋」の女将もその一人で、「継続は力なり」と教えてくれた。「当時はその言葉の深い意味が今一つ分かりませんでした。それが分かったのは三十歳ぐらいのときです」。かつては若さの勢いで「太く短く」をモットーにしていたが、今は少しずつでもたゆまぬ努力を重ねて歩を進め、料理道を進もうとしている。

「南地大和屋」は各界の著名人が最真にしたことで知られ、木原氏は、経済界の重鎮や作家などに刺激を受けたそうだ。中でも、何十年來の縁が続いているのが、大分県の釋空満寺の猿渡康道管長である。「すべてにおいて、気が大切である」と説く猿渡管長は、木原氏の料理の「気を食べにきている」と言う

「料理に限らず、苦しいことも何もかも見透かされているようで、管長にお会いすると泣いてしまいます。年に数回、滋賀県のすっぽん料理店をはじめ、三十名ぐらいの方をお連れになって、名店を訪ねられます。そのときに私も連れて行っていただいています。覚えろ」と、ご指導を受けています」

勤務先を変える木原氏を、「ホテルグランヴィア京都」時代からずっと追って来店してくれるお客様もいる。「その方は偶然、ザグラリゾートの会員でもいらつしたのです」と、木原氏は縁の妙を感じずにはいられないようだ。いろいろな人に出会い、育てられたという木原氏は、「料理を作る際、思いやりを大切にしています」と優しく語る。



洋 室

ザ グランリゾート 有馬

TEL078-904-1661
〒651-1401 兵庫県神戸市北区有馬町1740-1



- 電車、バスをご利用の場合
- 三ノ宮(バス)=有馬温泉=(徒歩)=GR有馬(約45分)
 - 大阪梅田(阪急バス)=有馬温泉=(徒歩)=GR有馬(約1時間10分)
 - 三ノ宮(市営地下鉄-北神急行)新神戸経由=谷上(神戸電鉄)=有馬温泉=(徒歩)=GR有馬(約40分)
- 自動車のご利用の場合
- 名神吹田IC=中国道、阪神高速北神戸線経由=西宮山崎南IC=GR有馬(約40分)
 - 新神戸=新神戸トンネル=阪神高速北神戸線谷上経由=有馬IC=GR有馬(約30分)



最初に勤めた「南地大和屋」の総料理長、故・鈴木忠秀氏からは厳しく指導された。また鈴木氏の二代あとに総料理長を務めた故・水谷菊男氏は面倒見のいい師匠で、木原氏が三十代で「南地大和屋」に戻ったと

美味しいだけでなく、
体に優しい料理



THE GRAN RESORT

有馬

—風待月会席—

先 附

鮑艶煮 車海老含煮 一寸豆塩蒸し
里芋白煮 のびる
ずいき 蒸し雲丹 順才
たたきオクラ 美味出汁



前 菜

鱈山椒煮 天盛花山椒 才巻ずんだ百合根
鮎にがうるか 手毬冬瓜 新蓮根小袖寿司
新丸十レモン煮
千代口
くみ上げ湯葉 イクラ
山葵 割ポンジュレ
梶の葉



造 里

茂魚 鮪
山葵葉 青さゼラ寄せ
針南瓜 大根剣 山葵
松前醤油

食前酒

ジンジャーワイン



吸 物 (清汁仕立)

焼目伝助穴子 カンナ冬瓜
水無月豆腐 輪柚子





揚物

小蛸の天婦羅
らっきょうのフライ
青唐
焼葱味噌
ほうじ茶塩



蒸物

小鯛鳴門蒸し
カンズリ卸し
焼舞茸 打ち葱



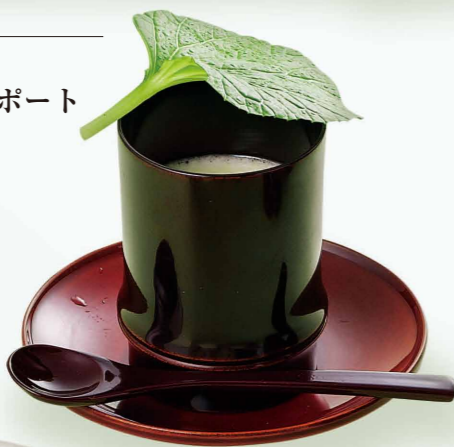
木の実

日本酒アイス レーズン
パパイヤ キウイ ミニトマトコンポート
マラスキーノゼリー掛け
ミント



焼物

鱧独活八幡巻
土佐梅肉
生姜甘露煮
鱧肝時雨煮
松葉刺し



留 椀

赤出汁

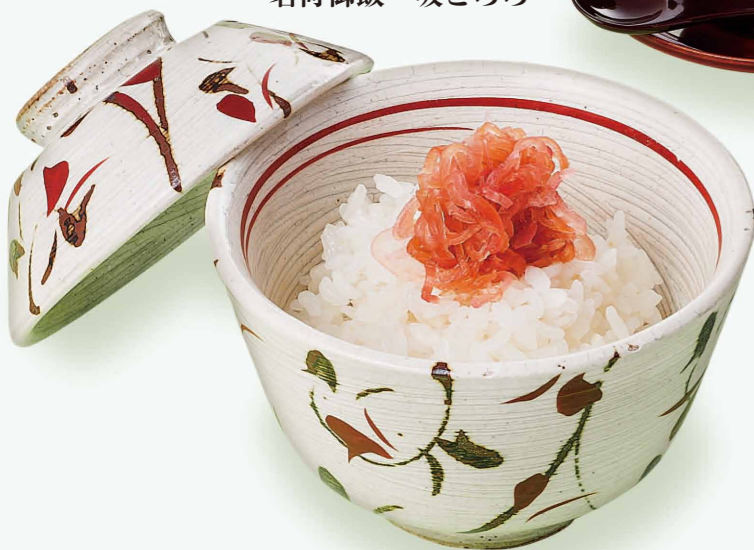


冷 物

神戸牛ロースト 冷やしトマト添え
茄子田舎煮 グリーンアスパラ
白髪葱

食 事

茗荷御飯 吸とろろ



香 物

茄子辛子漬け
胡瓜 紀ノ川漬け



風待月会席

食前酒

ジンジャーワイン

先附

鮑艶煮 車海老含煮 一寸豆塩蒸し
里芋白煮 のびる
ずいき 蒸し雲丹 順才
たたきオクラ 美味出汁

前菜

鰯山椒煮 天盛花山椒
才巻ずんだ百合根 鮎にがうるか
手毬冬瓜 新蓮根小袖寿司
新丸十レモン煮
千代口
くみ上げ湯葉 イクラ
山葵 割ボンジュレ
梶の葉

吸物
(清汁仕立)

焼目伝助穴子 カンナ冬瓜
水無月豆腐 輪袖子

造里

茂魚 鰯
山葵葉 青さセラ寄せ
針南瓜 大根剣 山葵
松前醤油

蒸物

小鯛鳴門蒸し カンズリ卸し
焼舞茸 打ち葱

焼物

鱧独活八幡巻 土佐梅肉
生姜甘露煮 鱧肝時雨煮 松葉刺し

冷物

神戸牛ロースト 冷やしトマト添え
茄子田舎煮 グリーンアスパラ
白髪葱

揚物

小蛸の天婦羅
らっきょうのフライ 青唐
焼葱味噌
ほうじ茶塩

食事

茗荷御飯 吸とろろ

香物

茄子辛子漬け 胡瓜 紀ノ川漬け

留椀

赤出汁

木の実

日本酒アイス レーズン
パイヤ キウイ
ミニトマトコンポート
マラスキーノゼリー掛け ミント

食前酒

初夏に似合いの爽やかなワイン

木原 本日は、「風待月会席」と題した御献立
をご用意しました。食前酒のジンジャー
ワインは、ジンジャーと白ワインを同割
にし、さらにそれを炭酸水で同割にし
ました。
小山 蒸し暑い六月にぴったりの爽やかで美味
しい食前酒だと思いました。



木原 俊 料理長



小山 和夫 運営本部長常務理事

木原 六方に剥き、水に晒した後、塩で揉み洗
いでぬめりを取り、灰汁抜きをしまし
た。十杯の出汁が九杯ぐらいになるまで
ゆっくり炊き込み、ほんの香り程度に淡
口醤油を落としました。
小山 しっかりと味が付いているものの中に、葱
を使うようにして「のびる」をアクセシ
ョントにしているところに面白みを感じまし
た。全体のバランスがとれており、勉強
になります。もう一つの料理の「ずいき」
はどのように戻されましたか。
木原 皮を剥き、酢水に浸けて灰汁止めをし、
作取りしました。そして、鷹の爪と大根
卸を入れた湯で茹で、丘上げしました。
粗熱が取れたら水で洗い流し、地に浸け
込みました。
小山 食材と美味出汁のバランスが良かったと
思います。
木原 美味出汁は、出汁八杯ぐらいで、追い鰹
をしています。
小山 ポリユームのある素晴らしい先附でした。



◆ 国民の食のレベルアップに貢献 ◆
日本の伝統料理である会席料理の食材と作り方を紹介することににより、
「食の不易流行」を伝え、そのノウハウを広く国民の食生活の向上に役立てていただきます。

先附

食材同士が相性がよく、
二種類の料理のバランスもよく



木原 先附には二種類の料理を作りました。鮑
艶煮には活け鮑を使いました。タワシで
洗い、昆布蒸しにし、身を殻から外して、
艶煮にしています。
小山 煮汁の割合を教えてください。
木原 酒四、味噌一、淡口醤油〇・八、砂糖適量、
みじん生姜です。最初にこの地で鮑をサツ
と蒸かし、丘上げしました。その後、地
だけを詰めて、その地で鮑を絡める要領
で仕上げています。
小山 とてもうまく作っておられます。
木原 車海老は、色出した後、出汁九杯でサツ
と沸かし、丘上げしました。そして地を
冷やし、車海老を一晚浸け込みました。
小山 里芋白煮がきれいに美味しく炊き上がっ

前菜

工夫と技が生み出した美しい逸品

木原 鰯山椒煮の鰯は五枚に卸し、骨切りする
ように庖丁を入れて身に模様を付け、塩
をしました。牛蒡は湯がいてから水に晒
しておきました。その牛蒡を芯にし、鰯
の皮目を内側にして巻き込み、竹の皮で
結びました。その後、溜まり醤油を入
れた九杯ぐらいの出汁を沸かし、その中に
鰯を入れました。そして八五〇℃ぐ
らいの温度設定にしたコンベクションを
使い、沸騰させないようにして約一時間
かけて蒸し煮にしました。
吉田 鍋で炊いたら、これだけふわっとした軟
らかさに仕上がらないと思います。真っ
黒に炊き上げたことで、前菜の料理全体
が引き締まっています。花山椒もきれい
ですね。
木原 当ホテルの庭で育てている花山椒です。
塩と炭酸塩で揉んで、三十分ぐらい置い
てから、銅鍋で沸かした湯にサツと入れ、
色出ししました。その後、トレハロース
水に浸け、しっかりと色を止めています。
吉田 才巻ずんだ百合根の作り方を教えてください。
木原 枝豆は、塩湯がきし、薄皮まで剥いて、
小さく切っておきました。海老は湯が
いて開いておきました。百合根は、蒸して
裏漉しし、二枚鍋で練った後、当たりを
付け、枝豆と合わせました。それを棒状
にして海老を巻き付けました。
吉田 百合根にはどのような当たりを付けられ
ましたか。
木原 少し甘めの八方出汁を使いました。鮎は、
三枚に卸し、はらわたを取っておきました。



坂口 保則 副会長



ザ グランリゾート 赤穂 料理長
尾鷲 敏之氏



吉田 功 会長室長



木原 酒三に差し昆布をし、火を入れてア

尾鷲 キリコ風の器がきれいで、清々しさを

木原 旬の茂魚と鮪を松前醤油でお召し上

造り

清涼感のある器に
海の幸の美味しさがたっぷり

尾鷲 して色をしつかり出しました。その



木原 新運根小袖寿司は、天に盛った梅肉

吉田 寿司ネタの新運根は、桂剥きにし、

木原 酢取りにしました。梅肉には、酸味

木原 手毬冬瓜の作り方は、まず海老を剥

吉田 うるかの苦みが過度にのっついて美

味です。手毬冬瓜が美しく、初夏らしさを感じます。

木原 小鯛鳴門蒸しには、池島フーズ株式
会社のわかめそばを使いました。麺
に若布が練り込まれていることから
「鳴門蒸し」と名づけています。この
そばは腰が強いので、いったん湯が
いておきました。
坂口 小鯛はどのように処理されましたか。
木原 三枚に卸し、軽く塩を振り、身の方
だけを昆布押しにしました。その身
でそばを巻き、蒸し上げました。そ



蒸物

ふんわりした小鯛がくるむ
磯の香りのわかめそば

尾鷲 ルコールを飛ばしました。濃口醤油

二を足して、もうひと煮立ちさせ、
大量の鰹節を加えました。そして三
週間ほど寝かせています。
実に良いお造りだったと思います。
ありがとうございます

木原 大きい穴子を意味する地方名のような
です。その伝助穴子が旬に入ります
尾鷲 三角の豆腐に小豆が添えられ、見た
瞬間、水無月の季節が伝わってきま
した。鰹の香りが立った美味しいお
吸物です。余談ですが、「伝助穴子」
は関西と瀬戸内海地方だけの呼び名
のようです。

吸物

御椀から溢れる水無月の季節感

吉田 とうろみ剤を使われるなど、全体的に

いろいろ考え、工夫して作っておら
れます。見た目にきれいで、美味しく、
本当に良い前菜でした。ありがとうございます。

木原 出汁三、ポン酢一にとろみ剤を加え

吉田 うまく仕上げられておられます。くみ上

げ湯葉は割ボンジュレで美味しくい
ただきました。このジュレの割を教
えてください。
木原 出汁三、ポン酢一にとろみ剤を加え

の強い梅干しを使っています。種を
取り除いて裏漉しし、粉鹽と砂糖で
味を調え、二枚鍋で火にかけました。
最後に煎り酒で伸ばしています。新
九十レモン煮は、新丸十を切り出し
て面取りし、水に晒した後、一昼夜
梔子水に浸け込みました。次の日に
火にかけ、水に晒しました。五百蜜
に移し、スライスレモン、コアント
ロー少々を入れ、沸騰させないよう
に気を付けながら一時間ほど煮詰め
ました。
吉田 うまく仕上げられておられます。くみ上
げ湯葉は割ボンジュレで美味しくい
ただきました。このジュレの割を教
えてください。



木原 鰹独活八幡巻の鰹は、卸しから軽く
塩を振り、骨切りしました。その後、
バーナーで皮目にだけ火を通しまし
た。独活は、剥き、酢水に浸けて灰
汁止めをし、吸地八方で軽く炊い
ておきました。そして鰹でその独活を
巻き、若狭地を一度掛けて焼き上げ

焼物

鰹の豊かな美味しさを堪能

木原 して青葱の青い部分だけを針打ちに
して盛っています。
坂口 ふんわりした小鯛の食感と、葱の歯
触りを楽しめました。また、もっちり
した歯応えのそばから磯の香りが
漂い、私も使ってみたと思います。
カンズリ卸しのピリツとした辛
さも効いていました。



木原 口当たりが滑らかで、美味です。冬

瓜の色の美しさが際立っています。
どのように色出しをされましたか。
皮を剥いて薄く塩を振り込んでおき、
次の日にもう一度塩を振り込み、トレ
ハロース水を沸かして湯がきました。
そして冷たいトレハロース水に落と

尾鷲 丁寧に庖丁を入れられているため、

木原 水無月豆腐は、液卵一に対して出汁

二を合わせました。さらにこの出汁
二に、ホワイトアスパラペースト一
を合わせて当たりを付け、蒸し固め
ました。
木原 口当たりが滑らかで、美味です。冬

たので使わせていただきました。穴
子はぬめりが多いので、庖丁でよく
しごきました。軽く塩をまぶしてお
き、その後、もう一度塩を振って揉
みました。それからこそぎ、臭みを
抜くためにバーナーで皮目だけを炙
りました。
尾鷲 丁寧に庖丁を入れられているため、
舌に骨が当たりません。また生臭み
が全くなく、本当に美味しく仕上が
っていました。



揚げ物
柔らかく煮にされた小蛸が
サクッとした衣をまとう

木原 小蛸の天婦羅をご用意しました。小蛸は、片栗粉を使ってぬめりを取り、霜降りした後、コンベクションを使って九五℃で四十分ほどかけて蒸し煮にしてから、揚げています。衣はサクッと、中の小蛸はとても柔



山崎 良信 幹事長専務理事

清水 どれくらいの時間炊かれましたか。
木原 アルコールが飛ぶ程度です。茄子は、適宜切り、皮目に切れ目を入れた後、油で揚げました。地は二等分し、半分は冷やしておきます。もう半分は沸かして、揚げた茄子を入れて油抜きします。その後、冷やしておいた地に浸けました。
清水 地はどのような割合ですか。
木原 出汁八、味噌一、濃口醤油〇・五、淡口醤油〇・五、砂糖少々です。
清水 メインのローストビーフも野菜もすべて美味しくいただきました。ありがとうございます。

冷物
主役のロースと野菜の持ち味を
最大限に引き出す

木原 神戸牛ローストは、塩と胡椒を振り、ニンニクパウダーを軽く掃り込み、一晚置きました。そしてフライパンで全面に焼目を入れ、コンベアで焼きました。
坂口 鰻の肝という貴重なものを美味しくいただきました。鰻の美味しさを二度味わえる焼物でした。勉強になりました。
木原 鰻の肝は、酒四、味噌一、濃口醤油〇・五に、砂糖、みじん生姜を加えて炊き上げました。
坂口 鰻の肝と、カリカリとした食感が残っています。灰汁も回らず、うまく仕上がっていると思います。
木原 生姜は、小角に切り出し、水に晒した後、三十分間、圧力鍋にかけました。そして再び水に晒し、丘上げし、五百蜜に入れ、二十分間、圧力鍋で加圧しました。
坂口 色がきれいで、カリカリとした食感が残っています。灰汁も回らず、うまく仕上がっていると思います。
木原 鰻の肝は、酒四、味噌一、濃口醤油〇・五に、砂糖、みじん生姜を加えて炊き上げました。
坂口 鰻の肝という貴重なものを美味しくいただきました。鰻の美味しさを二度味わえる焼物でした。勉強になりました。
木原 鰻の肝は、酒四、味噌一、濃口醤油〇・五に、砂糖、みじん生姜を加えて炊き上げました。
坂口 鰻の肝と、カリカリとした食感が残っています。灰汁も回らず、うまく仕上がっていると思います。
木原 鰻の肝は、酒四、味噌一、濃口醤油〇・五に、砂糖、みじん生姜を加えて炊き上げました。
坂口 鰻の肝という貴重なものを美味しくいただきました。鰻の美味しさを二度味わえる焼物でした。勉強になりました。

木原 柔らかく煮にされています。出汁で炊いているような感じですね。
山崎 はい。八杯の出汁に昆布などを入れています。らっきょうは、兵庫県三田市の島らっきょうで、一皮剥き、パン粉を付けて揚げました。青唐は素揚げにしています。
山崎 えぐみがなく、美味しい島らっきょうです。焼葱味噌にはどのような味噌を使われましたか。
木原 もろみ味噌など、いろいろな味噌を合わせ、焼いた葱を混ぜ込みました。
山崎 ほうじ茶塩は胡麻のような風味があります。どのようにして作られましたか。
木原 ほうじ茶を乾煎りした後、フードプロセッサにかけ、裏漉し器でふるいにかけてみました。それを塩と合わせて当たり鉢で細かくしました。
山崎 美味しくいただきました。ありがとうございます。



清水 クッションをオーブンに設定し、最初に九〇℃で十五分間、続いて温度を八〇℃に落として十五分間、火を通しました。
木原 肉の硬さも味も申し分ありません。冷やしたマトには少し酸味があり、その酸味の中に甘味も感じられます。調理法を教えてください。
木原 トマトを湯剥きし、一口大に切り出し、鍋に入れました。そして純米味噌をひたひたに入れ、形が残るよう弱火で炊きました。その後、鍋ごと氷水に浸けて冷やしました。純米味噌を使ったのは甘さを抑えられるか



清水 末広 会長補佐

食事・香物・留碗・木の实
二種類の美味しさを味わえる
茗荷御飯



尾崎 滋 筆頭会長代行

木原 暑くなってくると食欲を落とされる方がいらっしやいます。そこで最初に、ほどよく酢を効かせた茗荷御飯を召し上がっていただき、次にとろろを掛けて少し違う味わいの茗荷御飯を楽しんでいただく趣向にしました。

尾崎 作り方を説明してください。

木原 茗荷は、色の付いた部分と、白い部



木原 分を分け、針打ちにしました。色の付いた部分は、湯がいて酢取りにしました。白い部分の半分を御飯と一緒に炊き、もう半分は、炊き上がった御飯に混ぜました。酢取りした茗荷は天盛にしました。

尾崎 見栄えがよく、茗荷の香りをうまく生かされています。茗荷御飯はどのような出汁で炊かれましたか。

木原 昆布出汁に塩だけで当たりを付けました。吸とろろには長芋を使用しました。田舎味噌で味噌汁を作り、冷まして味噌の成分を沈殿させました。そして上澄みだけすくって、とろろを伸ばし、山葵で味を調えました。

尾崎 香物はあっさりしたもので、美味しくいただきました。焼茄子と刻み葱を具にされた赤出汁は、風味よく仕上がっています。赤味噌だけを使われたのですか。

木原 苦みを抑えるために大阪の髄甲味噌

全体的な感想

尾崎 ほんの少量加えています。デザートは「木の实」と名付け、二種類ご用意しました。一つは、広島県福山から取り寄せた酒粕を使い、日本酒アイスを手作りしました。卵黄18個、グラニュー糖一二五g、塩小さじ四分の一、エバミルク三四〇g、生クリーム五〇〇cc、酒粕二七〇g、牛乳一五〇ccを合わせ冷蔵庫に入れ、何度も取り出し、空気を入れるようにしてかき混ぜました。

尾崎 美味しいアイスクリームです。もう一つのミニトマトコンポートの作り方を教えてください。

木原 ミニトマトを湯剥きし、煮切った白ワインに入れ、ひと煮立ちさせた後、冷やしました。

尾崎 マラスキーノはリキュールですか。

木原 サクラランポのリキュールです。板ゼラチン一枚に対し二〇〇ccのマラスキーノを固め、刃叩きし、フルーツに掛けました。

尾崎 リキュールがちよっと効いて美味でした。勉強させていただきました、ありがとうございました。

森口 有馬がウリにしている神戸牛をはじめ、鮎や茂魚などこの季節の食材をしっかり使っておられます。癖のある穴子も上手に調理され、良い吸物に仕上がっていました。全体的に美味しい料



森口 富士夫 会長

理を完成されていきました。色彩も味も良かったと思います。一首詠みました。
雨あがり 螢の灯 有馬川
(敬称略)



ザ グランリゾート 有馬 料理長 木原 俊氏、ザ グランリゾート 有馬 支配人 畑 壽樹氏、ザ グランリゾート 赤穂 料理長 尾崎敏之氏と連合会役員